

## がん化学療法を行う患者の看護

### —嘔気時の効果的な看護援助の方法—

#### 1 病棟10階東

○平原文子 岡恭子 上野由紀恵 林智子 斉藤恵子

#### 【はじめに】

血液疾患で入院し治療が始まると多量、多剤併用の化学療法が長期間行われる。その為、化学療法による副作用も強く、患者の苦痛は大きい。この中でも嘔気は、食欲の低下を起し、闘病意欲の低下にもつながるといわれ、副作用の中でも1番辛いものとされる。そこで今回、私達はがん化学療法を行なった患者の嘔気時の援助についての事前調査を行い、その中で有効とされる看護援助と、嘔気時の援助方法として最近有効と言われるリラクゼーション法を用いて、1事例に嘔気時の援助を行い若干の示唆を得たので報告する。

#### 【研究目的】

嘔気時の看護援助を事前調査し、最近の有効な看護援助法も取り入れ、現在、化学療法を行っている1事例に実践し、個々の患者にあった嘔気時の看護援助とは何かを考える。

#### 【研究期間】

H14年5月から7月

#### 【研究方法】

- ①今までにがん化学療法を行った患者に嘔気時の看護援助で、何が有効であったか事前調査をした。(表1)
- ②①の結果とリラクゼーション法を取り入れ、以下の方法で本事例に対し、看護援助をする。

本事例の効果判定として河内らの消化器症状のGradeの分類基準(表2)とフェイス・スケール(図1)を用いて評価する。

1) リラクゼーションの中の、荒川<sup>1)</sup>の言うリラクゼーションの中の呼吸法と受動的筋弛緩法を取り入れた。

化学療法が始まる前にプリントのコピーを渡し、患者と共に何度か試みた。(図2)

- 2) 胃部の冷罨法については、アイスノンベルトを心か部にあて、嘔気出現と同時にを行う。
- 3) レモン水を含嗽は市販のレモン(ポッカレモン)をコップ一杯の水に数滴落しうがいをする。嘔気出現時か嘔吐後に行う。
- 4) 氷水を含嗽はコップ一杯の水に氷を2から3個入れて、嘔気出現時や嘔吐後に行う。
- 5) ガムの咀嚼は嘔気出現時に咀嚼する。ミント系とフルーツ系の2種類あるが本人の嗜好によるものとする。

#### 【事例紹介】

AML 25歳 女性 既婚 性格は内気なタイプで痛みに弱い

入院期間 第1回目H13年6月19日から12月26日、第2回目H14年3月18日より現在に至る

#### 【患者の経過および患者背景】

H13年6月AMLと診断され入院、7月完全寛解となり9月地固め1コース途中敗血症併発する。治療中も嘔気症状強く、再三唾液を吐出している状態であった。食欲も低下し、

感情面もナイーブで、痛みに対しても弱い為、処置のあるたび、側で声かけや意図的タッチングを行った。中心静脈などのルート確保や骨髄穿刺などの検査時には、軽い鎮静剤を使用するなどの配慮が必要であった。12月完全寛解維持にて退院となる。H14年3月再発し、再度寛解導入療法目的で入院し7月5日に姉（ドナー）より骨髄移植（以後BMTと略す）を受ける。

#### 【BMT前後の経過と結果】（表3）

H14年3月より無菌室入室し化学療法が開始される。初めはリラクゼーション法の中の呼吸法と受動的筋弛緩法をパンフレットを用いてを行ったが、有効な結果は得られなかった。BMT3日前より胃部の冷罨法を行い意図的タッチングを行った。BMT2日前より、氷水の含嗽、レモン水の含嗽を行った。BMT3日後、腸蠕動が弱くなり始めガムの咀嚼を進めた。この頃から嘔気時のスケールである、Gradeの分類も2から1となりフェイス・スケールも2から4を示すようになった。BMT3日後以降はガムを噛むことと胃部の冷罨法のみで、嘔気は軽減していった。

本人も「ガムを噛むとムカムカが違う」という言葉が聞かれた。

#### 【考察】

今回、私達は本事例の嘔気時の援助を行う為、今まで、多量の化学療法を行った患者に事前調査を行い、看護援助の中で何が有効であったか調査した。

そしてこの調査結果と、最近有効と言われているリラクゼーション法を用いて援助を行うことにした。効果判定を示すため、Gradeの分類とフェイス・スケールを用いて評価した。この事例の場合ガムのみでなく胃部の冷罨法をいっしょに行った事が相乗効果となり嘔気の軽減につながったと考える。

そこでこれらの有効性を考えると、胃部の冷罨法においては胃の外からの冷却により血流が抑制され、胃の安静が得られると考える。レモン水の含嗽はレモンによる口腔内のさっぱり感があり、いつまでも口腔内に不快な臭いを残さない効果があり、唾液の分泌も促す効果もあると考える。氷水の含嗽は口腔内のさっぱり感を与える効果があると考える。

ガムの咀嚼においては、ガムを噛むことで、大脳を刺激し、噛む動作が唾液を分泌し腸管に送り、腸の蠕動がおこり、嘔気の軽減となると考える。また、口腔内の保湿と保清効果もあるといわれる。評価においても短期間での試みであり一事例のみのためはっきりとした結果はわからないがこの研究においてガムの咀嚼の有効性を発見したことが最も新鮮であった。またガムをかむことは乗り物酔いなどの、嘔気に対して低減効果があると某会社でも立証されていた<sup>2)</sup>。

今後は、ガムについての詳しい調査、他患者への提示を行ないながら、この結果の有用性について探求する必要がある。

現代は制吐剤の開発が進み以前ほど嘔気や嘔吐の訴えは少なくなってきた。しかし、がん化学療法を行う患者にとって、嘔気は一番辛いものである為、この苦痛の軽減をはかり患者の入院中のQOLを考えることは看護者にとって大切なことである。

嘔気、嘔吐の軽減をはかるためのアプローチを探ることは、看護上の大きな課題である<sup>3)</sup>と述べられているように、嘔気に関しても早期に、患者の状況を把握し患者の背景、性格を考慮し、適切な看護援助が必要と考える。

今回の事例を通し、早目に患者の状態にあった看護援助の方法を解りやすく提示すること、嘔気の援助方法を多く持っていることががん化学療法を受ける患者の援助には必要である。

#### 【まとめ】

1. がん化学療法を行う血液疾患の患者を対象に、嘔気時の援助について事前調査をした。
2. 事前調査から得られた援助方法と文献検索より得られたリラクゼーション法を用いて、本事例に嘔気時の援助を行なった。
3. 嘔気時の援助の効果判定をGradeの分類とフェイス・スケールを用いて行った。
4. 本事例の場合、胃部の冷罨法や氷水の含嗽、レモン水の含嗽、ガムの咀嚼が有効であった。

#### 【引用参考文献】

- 1) 荒川唱子；リラクゼーションを学ぼう，看護技術，47（11）：83－87，2001
- 2) 古林 隆他；チューインガムの咀嚼による乗り物酔い発生低減効果，KKロッテ中央所1995
- 3) 荒川唱子他；看護にいかすリラクゼーション技法，医学書院，P147，2001
- 4) 内布敦子；がん看護研究において生ずる研究対象者へのリスクとその配慮，看護研究34（2）：63－69，2001
- 5) 西條長宏他；がん治療副作用対策と看護ケア，先端医学社，2000
- 6) 池上直己他；臨床のためのQOL評価ハンドブック，医学書院：52－61，2001
- 7) 末森節子他；癌化学療法に伴う嘔気、嘔吐を軽減させる指圧の有効性の検討，成人看護，1996
- 8) 滝口俊男；チューインガムの機能と効用，食の科学，1995
- 9) 板垣幸子他；レモン氷を使用して効果的に唾液分泌を促す為の口腔ケア，日本リハビリテーション看護学会：220－222，2000
- 10) 澄川美智他；白血病患者の看護，臨床看護24（11）：1604－1618，1998

表1 嘔気時の援助方法

—事前調査より—

患者	年齢	性別	疾患	治療	嘔気時の援助
A	32才	女性	急性骨髄性白血病	臍帯血幹細胞移植 H14年 3月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水でのうがい</li> <li>・ファーラー位をとる</li> <li>・寝る</li> </ul>
B	17才	女性	同上	骨髄移植 H14年 2月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氷水でのうがい</li> <li>・背中をさすってもらう</li> <li>・寝る</li> </ul>
C	17才	男性	同上	骨髄移植 H14年 4月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そっとしておいて欲しい</li> <li>・寝る</li> <li>・氷水でのうがい</li> <li>・吐き気止め（プリンペラン）は気分不良を増強するため嫌い</li> </ul>
D	58才	女性	同上	寛解導入地固め療法 H14年 1月16日 ～2月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胃部の冷罨法</li> <li>・空嘔吐を誘発させる 数回繰り返すと落ち着く</li> <li>・氷水でのうがい</li> <li>・吐き気止めは気分不良を増強する</li> </ul>
E	28才	男性	同上	寛解導入療法 H14年 1月21日 ～現在に至る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガムを噛む</li> <li>・食べない</li> </ul>

表2 河内らの消化器症状のGradeの分類基準

嘔気のスケールのみ	
0	: 症状なし
1	: 軽度 (まれに嘔気があるがすぐに消失)
2	: 中等度 (臭いなどで嘔気がある)
3	: 強度 (体動時に嘔気がある)
4	: 治療を要す (常に嘔気がある)

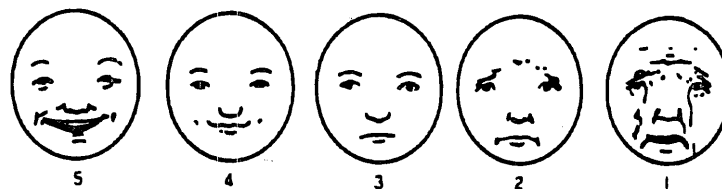


図1 フェイス・スケール 厚生省「がん薬物療法におけるQOL調査」一部抜粋



図1 呼吸法

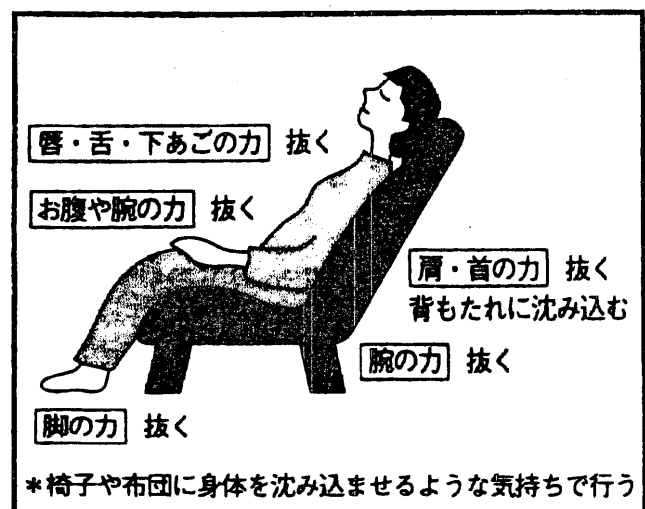


図3 受動的筋弛緩法

図2 リラクゼーションの患者用コピーの一部 文献10) 参照

表3 本事例のBMT前後の経過

日付	治療 T:            WBC:	嘔気の スケール	フェイス スケール	患者の訴え・様子	看護援助
2002 3/15	入院 化学療法開始				
6/28 BMT - 7	マブリン散内服開始 ナゼア静注 (2回/ 日) T:37.2    WBC:8400	1	3	「ムカムカするけど 大丈夫。」 時間はかかるが内服 する	側で励まし内服 を促す
6/30 BMT - 5	T:36.9	1	1	嘔吐し、泣き顔を見 せる	
7/1 BMT - 4	T:37.3    WBC:3400	3	1	「ムカムカする。」 腸蠕動音弱い	側で励まし見守 る 胃部冷罨法
7/2 BMT - 3	マブリン散内服終了 エンドキサン開始 T:37.2	3	1	「(呼吸法) やった けど変わらない。」 嘔気、倦怠感強い	呼吸法をすすめ るが倦怠感強 く、効果なし 背部タッチング 氷水含嗽 胃部冷罨法
7/3 BMT - 2	エンドキサン輸液中 T:37.0    WBC:5000	3	3	嘔気嘔吐続いている が援助後に改善 「なんかすっきりし て気持ちいい。」	胃部冷罨法 氷水含嗽 レモン水含嗽 背部タッチング
7/4 BMT - 1	エンドキサン終了 ナゼア静注終了 T:37.2	3	2	嘔吐する	レモン水含嗽 胃部冷罨法
7/5 BMT 0	BMT当日 T:37.6    WBC:2900	2	3	「お腹を冷やした方 が気持ちいい。」	胃部冷罨法 (常 時)
7/8 BMT 3	T:37.3    WBC:900	2 → 1	2 → 4	「ガムを噛むと多少 違う。」 腸蠕動音弱い	ガムを噛む
7/10 BMT 5	血培、抗生剤開始 G-CSF開始 T:38.0    WBC:100	2 → 1	4	口内痛の為ガムを噛 むことが困難	胃部冷罨法 (常 時)
7/13 BMT 8	生着確認 T:38.2	1	5	「生着して嬉しい。 ガムが効いた。」 笑顔を見せる	胃部冷罨法